

第一九九回ペン川柳会

令和二年十二月二十二日

お題「氷」

■ 松谷 (零門)
れいもん

角ハイの氷減らせと客文句
氷雨でも相合傘で銀ブラを

■ 西川 (酔雅)
すいが

水割りの氷も頼る宅配便
寒くなり氷屋変身たい焼きに

■ 塚田 (拿々)
ただ

薄氷を踏まず人生渡れるか
絶品だ！氷見の寒ブリ今が旬

■ 山縣 (安兵衛)
やすべえ

コロナ禍で世は氷河期へ逆戻り
夏恋し赤いイチゴのかき氷

■ 安藤 (晃二)
てるつぐ

薄氷をそれでも踏むか深き業
冰山と刃決戦胸おどる

■ 三春 (火酒)
ウオツカ

薄氷を踏んだ浮気でヒビ入る
南極じゃ息するだけで鼻氷柱(はなつらら)

■ 八木 (明迷)
めいめい

説教で氷が溶けた若いころ
薄氷を渡ったはずの八〇〇万

■ 稲宮 (井波) いなみ

氷上でミニが飛び舞い天女いつ
飲み会も氷漬けたよコロナ外

■ 平尾 (酔深) すいしん

凍り付く妻の一言「もうお終い！」
組み替える脚に釘付け氷の微笑

■ 細谷 (損得) そんとく

無理でした氷の女に熱い恋
氷点下七〇度以下とは殺生な

■ 大野 (だし)

コロナ禍で疲れた心に氷張る
効くのかな氷点下のワクチン打っただけで

■ 曾山 (酩帝) めいてい

朝帰り出て来た家内目が氷
ウォッカに氷を入れて睡(まどろ)む夕

■ 浜田 (我々好) ウイスキー

氷上の美女もマスクだアイスショー
菅さんへ氷雨降るよう支持下がる

世話人 塚田 實(拿々) だだ